



夢を追いかけることに年齢は関係ない お茶の可能性を信じて挑戦を続けたい

お茶染めを川根本町の文化にして、地域に根付かせたいという思いが、こんなに早く形になるなんて、本当に信じられません。一緒に歩んでくれた子どもたちや、協力してくれた皆さんに感謝しています。

この1年間、取り組んだことはお茶の新しい可能性につながっていると思います。学校や行政、染織技術の共同作業は全国でも川根本町しか取り組んでいない貴重なこと。このことをモデルケースとして県内外に紹介すれば、各地から企業誘致や教育

機関の研修先などの招致につながると思っています。

そのために、お茶染めをこの町で「仕事」にする環境を少しずつ整えています。工房を整備する計画も進行中。80歳を過ぎても挑戦は終わりませんが、後継者がどうしても必要です。

私はお茶染めプロジェクトで、地域に活動の種をまいただけ。これからその種を芽吹かせるために、一緒に挑戦してくれる人がいれば大歓迎です！



さいじょう かずこ
西條 和子 さん

お茶染めを未来へ 挑戦はまだまだ続く

1年間を通して地域と様々な活動に取り組んだお茶染めプロジェクト。一段落を終えた皆さんに感想を聞くと「やっとスタートラインだよ！」と笑います。川根本町の未来のために新たな挑戦が始まっています。

川根本町を絶対になくさせない 僕たちが未来につないでいかなくちゃ！

ロゴを作ると聞いてから、僕には何ができるのかずっと考えていました。お茶を使った新しい特産品で、川根本町が有名になると信じていますが、今のままではダメです。どんな人たちにどうやって発信していくか。しっかり考えたい！

僕の夢は、将来この町でお茶関係の仕事に就くこと。僕たちが作ったロゴ入りの商品を扱って、たくさんの人に知ってもらい、川根本町を絶対に未来につないでいきたい！

(西郷 海斗さん)

完成したロゴには、川根本町の魅力が詰まっています。若い人からお年寄りまで、一目見ればこの町をイメージできるはず。町のホームページや個人のYouTube、Instagramなどを使って宣伝をいっぱいしてほしい。外国の人にも魅力が伝わると思っています。

お茶染め商品が、この町を知ってもらうきっかけになるように、僕にもできることがある。まだまだやれることがあると思うとすごくワクワクします！ (長谷川 新汰さん)



中川根第一小学校
6年 長谷川 新汰 さん(右・徳山区)
5年 西郷 海斗 さん(左・徳山区)

1年間にわたって挑戦を続けたお茶染めプロジェクト。その成果が確かな形になって現れています。子どもたちが作り上げたお茶染め商品が今年、ふるさと納税の返礼品として登録されました。皆さんのひたむきな思いが実を結んだのです。

取材を通して、多くの人が「川根本町の未来のために何ができるか」と話してくれました。そんな姿に驚嘆さんの言葉が思い出されます。

「お茶染めを文化にしていきたいためには、地域の人たちの主体性が必要。誇りと情熱があれば理解者が自然に増えてくる。きっと川根本町はその土壌ができていきます」

この町には年齢や立場など関係なく、「ふるさと」を次の世代につないでいきたいと挑戦を続ける人たちがいます。そんな人たちの思いを地域全体で共有しながら、時には失敗し、支え合い、大きな挑戦にしていくことが大切なのではないでしょうか。

お茶染めプロジェクトが残した軌跡は、この先、川根本町を未来につなぎたいと思う人たちの確かな道しるべになっていくことでしょう。

特集「ふるさとをつなぎたい。未来へ」
終わり